

平成 29 年度 第2回消防力強化のための勉強会の概要

日 時:平成29年6月29日(木) 午後4時30分～5時45分

場 所:大阪府庁災害対策本部会議室

《主な意見(順不同)》

(○消防本部・市町村の発言、→事務局の応答)

◆消防広域化に係る検討調査／消防本部間の水平連携方策の検討項目(案)

(資機材の共同(一括)購入)

- 消防車は非常に高価であるため、どこの消防本部でも財政面で苦慮していると思う。広域化することにより、消防車を大量に購入できることも考えられるし、照明車があれば救助工作車1台1台に高価な照明等のオプションを付けなくてすむことになるので効果はたくさん出てくると思う。また、資材等を府下の消防本部でまとめて購入できればいいのではないかと思う。
- 消防本部からのアンケートの中にも意見として挙がっているので、検討していきたい。
事務局からの質問だが、各消防本部の資材等をまとめて購入すると経費は安くなると思うが、どこが取りまとめるかは別として、各消防本部はこの購入方法に対応することはできるのか。
- 考えている消防本部は多いと思う。同一規格で大量に買えば安くなるため、どこが取りまとめるかというのは難しいが、府下統一の仕様書があればできる。また、オプションについても統一的な仕様書があれば可能。
- 普通は1年分の資材を年度当初に一括購入していると思うが、大阪市では救急資機材について、SPDシステムにより使った分だけ補充してもらい、支払うことにしている。単価契約になっており、経費も1～2割安い。点滴等は期限前に交換してくれるので無駄がなく、在庫状況もわかり管理がしやすい。また、隊員の棚卸作業も不要である。福岡や東京でも既に実施中。ただし、納品業者が限られ、地元業者の受注機会の確保の視点など各市町村の方針との調整が必要。

(検討のアウトプット)

- 勉強会の中では、広域化等にかかる費用について検討していくのか、方向性を教えてほしい。
- 第1回の勉強会で、広域化検討調査の内容として①現状の消防力等の分析、②広域化の3つのパターン毎で運用効果を分析、③仮想消防本部の設定とスケールメリットの検討を挙げている。現状と仮想消防本部との差分が必要な経費になると思っている。今後、誰がどのように負担していくか、どこまで出せるかは現時点ではわからないが、まずは仮想消防本部の体制議論が必要。
- 先日、時事通信に勉強会の記事が出ていた。広域化に向けての内容であったが、今後、市長会及び町村長会に説明していくなかで、仮想消防本部についての内容は出ていくのか、それとも広域化についての効果だけを出す予定なのか。
- アウトプットは検討中であり、負担のあり方等も検討しないといけないため、どのようにお示すかは今後相談させていただく。

- スケールメリットの出し方に異論はないが、デメリットも示すべき。また、8月の市長会及び町村長会で説明すると、首長から各消防本部へ問い合わせが入ることになり、勉強会に参加していない市の消防本部は、内容がわからないので困るはず。市長会及び町村長会での説明の前に、勉強会への報告とともに、参加していない消防本部にも説明をすべき。
- 8月の市長会及び町村長会で各首長が初めて聞くことにならないように、各消防本部へは事前に説明させていただく予定。出すタイミングや説明の方法は事務局で検討させていただく。